



みなさん、こんにちは。2012年10月より、米国、ミズーリ州、セントルイスにある Washington University in St. Louis (WUSTL), Department of Pathology and Immunology, Prof. Marco Colonna の免疫学教室に留学させていただいております。この留学は、信州大学内科学第二講座および関連病院のみなさん、信州大学附属病院、友人など多方面からの多大なご支援によりかなったものであり、大変感謝しております。ありがとうございます！セントルイスというと…、すぐに思いつかない都市かもしれませんが、人口35万人、都市圏人口が280万人ほどの中規模都市で、大手ビール製造会社のバドワイザーの本社があります。メジャーリーグではセントルイスカーディナルス（がんばれ！カーディナルス！）の本拠地です。また、検索サイトでは全米屈指の犯罪都市としても有名です…確かに、セントルイスの北側の極めて限られた地域では荒廃が進み、犯罪のほとんどがここで起きています。一方で、わずかしかない日本人が住んでいる南西の地域（大学から30 km ほど）は、平均年収1,000万ほどの富裕層ばかりが暮らすところですから、ほかのアメリカの都市と別段変わったことはないかなと思います。何よりも、松本の気候にすごく似ているのでとても過ごしやすく感じます。

単純作業が繰り返される実験自体は大嫌いですが、僕自身は海外に住んだ経験もなく、“外人”は“外人”と思ってしまう“日本人”なので、子供たちにはもう少し視野を広げてもらえたらいいかなと本来あるべき留学の目的とは違う思いもあり、その手段として「留学を」と思いました。とは言っても、なかなか留学先を得る機会に恵まれず、この留学は、大学院時代から続けている遺伝子多型に関する研究とゴルフが決め手

で、最終的にとても良い機会に恵まれました。Marco のラボは、完璧な基礎免疫学研究室で、特に自然免疫学においては世界最前線の研究が行われています。質の高い研究はより質の高いトップジャーナルに掲載されるわけですが、ほとんどのラボメンバーがそのような背景を持っており驚きます。信州人としてがんばらないといけないなと“啓蒙”されます（笑）。その反面、みなが流暢に英語を話し、基礎実験手技ができ、どんどんディスカッションしている姿をみると、撃沈の日々で、さらに屈辱的です。「なぜここにいるんだろう？」「もっとゆるーいラボでよかったな」と何度考えたかわかりません。11年間臨床医としてやってきたこととはだいぶ遠くに感じてしまう基礎研究と、毎日大嫌いな実験に戸惑い、全く境遇の違う環境に入りこみ、全く知らないことをゼロからスタートする…それでも、やらなければ進まないの、毎日毎日コツコツやっていたらプロジェクトをいくつか掛け持ちする状況になっていました。肝臓内科医として、ウイルス性肝疾患や自己免疫性肝疾患のような慢性肝疾患の診療を行ってきたので、僕の主たるテーマは「肝疾患における形質細胞様樹状細胞、自然リンパ球を中心とする自然免疫機構の解析」です。ノックアウトマウスやトランスジェニックマウスの作出から始まり、最終的にはヒトで起きていることとのダイバーシティを成し遂げたいというのが方向性ですが、9カ月が過ぎた時点でやっと目的のマウスができそうかもというまさに博打的な状況です。言い換えれば、非常にわくわくする状況でもあります…帰局するべき時期は決まっており、この研究成果を最後までみることができののかもわかりませんが、毎日続けていればゆっくりだけれど着実に進歩するということがわかってきたので、実験は大嫌いですが（しつこいですね（笑））、それが今の留学生活維持に大きく寄与しているように思います。

報道のごとく、日本人留学生は極めて少ないです。事実、WUSTL に留学中の MD は数名しかおりませんし、最も若い世代が僕ら昭和51年生まれです。留学は、日常臨床に迫られる信州の臨床医にとっては、家族との時間を持てる最高の機会ですし、研究の幅を広げ、多くのことに対する視野を広げる良い機会だと思います。ご留学を検討中のその先生！早速今日から動きはじめてみましょう！

(2013年8月)

(信州大学医学部内科学第二講座所属)